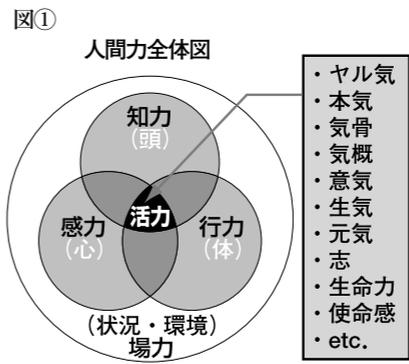


4月号では、中堅・ベテラン社員にとって《人間力》を向上させることがいかに重要かという説明をさせていただきますました。特に図①の「五つの力」の中でも、中心である「活力」を伸ばす必要性について解説しました。



今月号では、まさにこの内容について組織を挙げて取り組んでおられる、長野県にあるアスザック株式会社様・製造・販売業という企業をご紹介させていただきます。

メンタリング導入の経緯

アスザック株式会社様(以降アスザックと呼ぶ)では、以前より「コーチ

とにより、どんな変化が起こっているのかを検証したいと思っています。

インタビュー内容

大野 メンタリングを導入して、個人や会社のミッションやビジョンに対する意識を強化されようと思われたいですか。

総務部人事マネジャー・畔上正幸氏
(以下・畔上と略) コミュニケーション力を高めるといって目的でコーチングを導入しましたが、進めるなかで、コーチングという手法でのアプローチだけでは、現場のさまざまな問題が解決できないという意見が社内にあちこちから上がりました。

最初、それに対しては、人事としても明確な回答ができなかったのです。しかし、いろいろと探しているうちに「メンタリング」との出会いがあり、状況に応じた対応ができ、個人と会社のミッション、ビジョン、価値…という内容を整合しているのではないかと感じました。「これだ！」と感じるものがあり、コーチングだけに

「メンタリング」を導入し、管理職と現場の職員との風通しを良くし、職場の活性化を図ろうとしていました。

コーチングに加えて、一年前から始めたのが「メンタリング」です。初年度は、新入社員に対してメンターをつけるというカタチで始めました。

その効果があり、この年の新入社員の離職はゼロです。

その後アスザックでは、この、一

中堅・ベテラン社員の自己革新をヘルプするメンタリング

mentalling

Vol. 4

新しい人材育成への挑戦

アスザック株式会社の取り組みを聞く①



総務部人事マネジャー・畔上正幸氏

人ひとりの本質的な部分を大切に、人を活性化させる「メンタリング」を、会社全体に風土または文化として取り入れようということになり、全管理職に対してメンタリング研修(2日間)を実施したのでした。

この研修では、組織と個人のミッション(使命)やバリエーション(価値)、支援マインド、人間力、パラダイム、状況対応支援行動、行動パターン分析などをワークショップ形式で行いました。この研修後、総務担当の方がさまざまな取り組みをされ、会社が変わりつつあるのです。

この研修では、組織と個人のミッション(使命)やバリエーション(価値)、支援マインド、人間力、パラダイム、状況対応支援行動、行動パターン分析などをワークショップ形式で行いま



筆者と畔上氏
アスザック株式会社本社前で

らわれずにやっていこう、ということとでメンタリングを導入しました。

大野 この取り組みを始めて変化はありましたか。

畔上 変化の度合いについては、セクションによってかなり格差があります。例えば、「ミッション」や「ビジョン」について多く語られるようになった部署もあれば、そうでもない部署もあるようです。

大野 変化した部署に関しては、どんな変化が見られますか。

畔上 そうですね。例えば、今までは、どちらかという役員からの一方通行が多かったセクションでも、方針についてマネジャーの意見が反映できるようになりました。

つまり、社長だけでなく、他の役員(事業部長)からも、ビジョンや戦略について一方通行という感じだったのが、戦略会議では、その場でマネジャーの意見を聞くようになってきているという変化が見られるところ

です。

大野 それは大きな変化ですね。では現場においては、一般の職員の

方々から何か変化があると聞いていますか。

畔上 はい。現場の職員の人たちからは、マネジャーたちが自分たちの意見をよく聞いてくれるようになったと聞いています。

大野 なるほど。やはり、効果は出ているんですね。それでは、経営陣と管理職(マネジャー)の方々との関係に変化はありますか。

畔上 そうですね。以前は、指示されたことを中心にやればよい…という雰囲気でしたが、今は、それぞれのマネジャーが、自分から自発的に提案をしていかなければならない…という雰囲気がありますね。

大野 それはすばらしいですね。全

体の動きではないにしても、大きな変革は、小さな変化から始まると言えます(次月号に続く)。

次月号では、さらに核心に触れるお話を紹介させていただきます。

会社概要 アスザック株式会社

●設立: 昭和21年4月
●資本金: 6,350万円
●年商: 約55億円
●社員数: 370名
●事業内容: ファインセラミックス事業部(ファインセラミックス)
スペースエンジニアリング事業部(アルミ建材・エクステリア)
インフラエンジニアリング事業部(コンクリート2次製品・景観石材)
P&D事業部(電子機器・産業機械)

●本社: 〒382-8508
長野県上高井郡高山村大字中山981
TEL 026(245)1000(代)
URL http://www.asuzac.co.jp/

日本の大学で教育学を専攻した後、渡米。州立オレゴン大学大学院卒業後、アメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド等さまざまな国の教育機関や教育プログラム実践者を訪問し、グローバルエデュケーションモデルを模索。東洋思想、インド思想などとの出会いから東洋と西洋を融合するホリスティック教育を目指し、広範囲の教育ツールを研究。2002年に国際メンタリング協会を設立させ、「メンタリング」の普及と研究に力を注いでいる。活動としては、「現場中心主義」をモットーとし、学校教育と企業の人材教育の両分野で価値のブレークスルーを通じてモチベーションを高める独自の手法を用い、研修、講演などを行っている。コンサルティン分野では、ミッションマネジメント、メンタリングシステム導入、コーチングセルズ導入、企業の企画/戦略の作成、商品企画、などを手がける。また、米国のIMA(国際メンタリングアソシエーション)やISPI(国際パフォーマンス改善協会)の正会員として人材育成の分野において国際的な活動も続けている。

統合共育研究所所長
国際メンタリング協会理事
国際メンタリンググラジュエートスクール副学長
大野 雅之
Masayuki Obno